

企画名 癒しの森、香るヒーリングガーデン

～ 植物の香りが人を癒し、健康をもたらす、地域に開かれた病院の庭～

企画申請団体：社会医療法人平和会吉田病院

共同企画団体：あをによし奈良 Garden Link

12th
Contest
2017



1928年「あやめ池サナトリウム」として開設された吉田病院は、当時台頭しつつあった「療給生活者の理想郷(サラーメンス・ユートピアの実現)」を病院の基本方針とした。
一万坪の広大な敷地内の庭園の池には水鳥が泳ぎ、四季の花々が咲き、森の中に点在する木造の病棟は、「赤い屋根の病院」として地域でも親しまれていた。

現在、その大部分が近代的な病棟に建て変わったが、来年2018年、病院創設90周年を機に、かつての「心象風景」を再生したい。
四季折々に咲く「香り植物・樹木」の植栽により香り空間を創出し、地域に開かれ、多くの人々の心を和らげる、「癒しの森、香るヒーリングガーデン」を創るプロジェクトがスタートした。

プロジェクトの鍵となるのは「香り」。
古くから「香り」は、人間の暮らしの様々なシーンで親しまれてきたが、近年の研究で人の心身の緊張を緩和し、免疫力を向上するなど、良い効果があると分かってきた。また同時に、植物や土に触れる園芸体験により、五感や体性感覚の回復が促され、ストレス軽減、意欲・食欲の回復、認知機能・社会性の向上等の効果があることが、病院・学校・介護施設等で認知されてきた。
病院の庭が、入院患者のケアやリハビリテーション、地域住民の健康促進の場として活用されることが大いに期待できる。

今回のプロジェクトでは、病院内の広大なオープンスペースにおいて、様々な「香り体験」ができるよう、「巡る庭」、「集う庭」、「彩る庭」、「実る庭」、「縁(えに)の庭」、という5つの庭(右図参照)を設定した。

また5つのゾーン以外にも、新館前の駐車場スペースに、創建当時の桜並木(ソメイヨシノ)を想起する「春の並木ゾーン」、病院を南北に貫くメイン道路の両側に夏に青い花を咲かせるセイヨウニンジンボクを植栽する「初夏の並木ゾーン」をつくり、花と緑に囲まれたかつての病院風景を再生したい。

本病院は、地域に開放されており、院内通路は近隣住民の通勤・通学路としても利用されている。
病院関係者だけでなく周辺住民の憩いの場としても活用されており、日常的に多くの人が「香り環境」に触れている。

広大な緑地帯は、病院が運営する会員数約2万人を擁する「健康友の会」のグリーンボランティアチーム(約20名)が定期的に植樹やメンテナンス活動を行っており、患者や周辺住民との交流も盛んに行われている。

従来、病院は心身の病気の治癒の為に訪れる場所、と必ずしも閉鎖的な空間になりがちである。
しかし、その病院の庭が地域にも開かれ、季節毎に桜色や青に染まる名物の並木道があったとしたら?、香りのよい花や実る果樹があったとしたら? そこには病院の患者のみならず、ますます多くの人が訪れ、交流が生まれ、ボランティアや健康促進といった社会活動の場となるだろう。

『心身の病を癒し、地域の人々の健康を促進し、社会に貢献する。全ての人に優しく寄り添い、心地良い香りに満たされた「癒しの森」となる庭を創ること。』

それは、まさに吉田病院創設時の理念とびたりと重なり合っている。



現在の吉田病院



設立当時の吉田病院全景図



設立当時の姿を残す旧本館

戦後、「大衆のための医療」を使命として地域と共に歩んできた吉田病院は、来年2018年、創設90周年を迎える。その記念事業のひとつとして、敷地内の広大な緑地空間を四季の花々や木々で彩り、その香りや果実を楽しみ、患者や来院者、職員はもとより、地域住民の憩いの場とする「癒しの森、香るヒーリングガーデン」プロジェクトがスタートした。「赤い屋根の病院」として親しまれた、創建当時の花と緑にあふれた「心象風景の再生」と、人々の心を和らげる地域に開かれた「癒しの森/理想郷(ユートピア)の創造」がテーマとなっている。

メインガーデンとなるこの庭は、小高い斜面地に香り高いバラやハーブ、宿根草、香りの高木などを集中的に植樹。

香り
「巡る庭」

斜面を縫うように設けたスロープを巡り、「香り散歩」を楽しめる。同時に、風が吹き下りる度に、斜面下の道路を通行する地域住民にも香りが届けられる。



散歩で立ち寄った近所の幼稚園児たちが、庭で咲くバラの花の香りを嗅いで行く。子ども達の歓声が、病院に活気をもたしている。

香り
「彩る庭」

「眼科棟の建物の壁面に香りのつるバラを誘引。高台に位置するこの壁面は、近くを通る近鉄電車・奈良線の車窓からも眺められる。

香り
「実る庭」



駐車場横の斜面地には、香る果樹を集約して植樹。柑橘の香りを楽しむとともに、果実を収穫する喜びを味わえる庭。

香り
えにし
「縁の庭」



香り
「集う庭」



今年3月に長野県伊那市の切り花農家から譲り受けた約200株のバラ苗(詳細は、下部参照)を記念植樹。咲いた花は、病室等に届け、病室でも香り体験してもらっている。

創建当時から残るソメイヨシノの大木を中心に、藤棚とベンチを設置。ここでは健康友の会による花見会や音楽演奏会などのイベントが行われている。小さな池の畔の斜面地に水仙等香りの強い花々を群生させ、季節毎に咲く香り植物を楽しみながら、人が集い交流する庭としたい。



今年3月、バラの街、長野県伊那市の切り花農家のビニールハウスに遺されたバラ3000株の里親を募集するプロジェクトに手を挙げ、約200株の切り花品種のバラ苗を譲り受けることになった。
吉田病院グリーンボランティアの有志たちが、遠く長野県伊那市まで赴き、自らの手で遺されたバラを運び上げ、約300キロ離れた奈良市まで持ち帰った。
現地では伊那市のボランティアチームとも交流することができ、お互いの活動状況を話し合った。
持ち帰った伊那のバラは、病院内に設けた特設ガーデンに植樹し、その大部分が無事活着し、早速、花を咲かせた。
来年創立90周年には、長野県伊那市のグリーンボランティアチームを招待して、伊那バラフェスタも計画中で、民間レベルで奈良市・伊那市の交流を深めていきたいと考える。



伊那市・奈良市のボランティアチームの交流



吉田病院の伊那バラガーデン

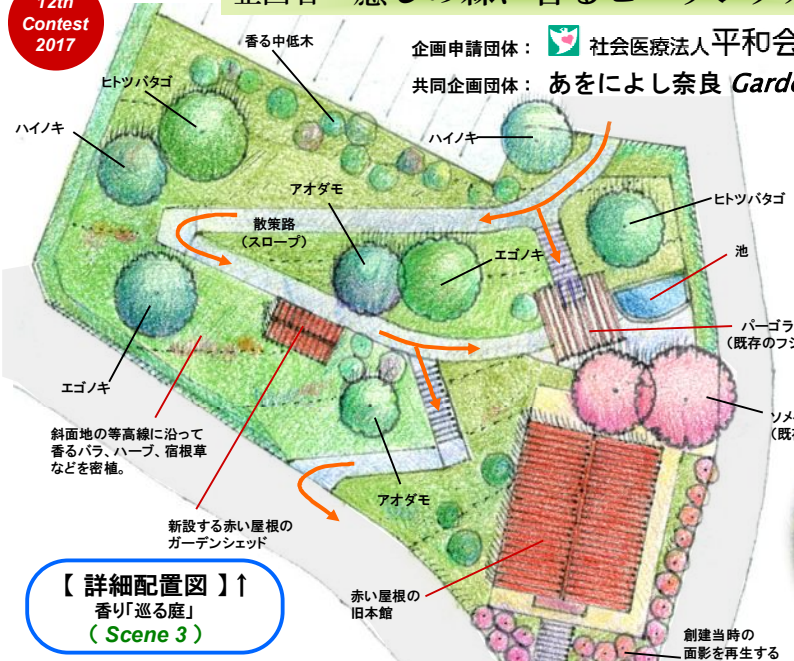
香りの植栽リスト

Month	Plant 1	Plant 2	Plant 3
March	ウメ	スイセン	ニオイミレ
April	ソメイヨシノ	エゾムラサキツツジ	フリージア
May	バラ	スズラン	アオダモ
June	ライラック	エゴノキ	セイヨウハイカウツギ
July	ユズ	フロックス	ニオイバマンツリ
August	セイヨウニンジンボク	カシワバアジサイ	ラベンダー
September	ギボウシ	ローズマリー	ブラックベリー
	タマノカンザシ	オリーブ	ブッドレア
			セイヨウニワトコ

企画名 癒しの森、香るヒーリングガーデン

企画申請団体： 社会医療法人平和会吉田病院
 共同企画団体： あをによし奈良 Garden Link

12th Contest 2017



【詳細配置図】↑ 香り「巡る庭」 (Scene 3)



使用する樹木				使用する宿根草等、草花			
シーン	樹木名	本数	本数	シーン	草花名	株数	株数
1	サクラ(ソメイヨシノ)	17本	10本	3	スイセン	200株	20株
1	サクラ(枝垂れ桜)	1本	10本	3	ニオイツツジ	200株	30株
1	ウメ	1本	1本	3	フリージア	50株	20株
3&7	エゴノキ	3本	3本	3	スズラン	100株	20株
3&7	アオダモ	3本	3本	3	フロックス・ディバリカーブ	20株	50株
3&7	ハイノキ	3本	3本	3	キボウシ・タマカンザシ	50株	50株
3&7	ヒトツバタゴ	2本	3本	3	フックベリー	5株	50株
5	オリーブ	1本	20本	3	カラマツ	25株	50株
5	ユズ	1本	25本	3	クワリセイジ	30株	50株
5	レモン	1本	50本	3	スイートピー	30株	100株
5	カンシ	1本	10本	3	ツルバキア	50株	200株
4	セイヨウニンジンボク	10本	20本	3	ヒヤシンス	50株	50株

香り「彩る庭」 Color Garden
 斜面の庭の最頂部にあたる高台の建物の白い外壁には、遠く電車の車窓からもはっきり見えるような彩り鮮やかな大型のつるバラを誘引し、修景。足元には香りの強い小型のつるバラも組み合わせ、散歩する人が顔を寄せて香りを嗅げるよう工夫する。

香り「実る庭」 Harvest Garden
 駐車場に面した斜面に、ユズ、レモン、オリーブ、ブラックベリーなどの実がなる果木、草花を植え、その実を患者が収穫体験することができ、五感で楽しめるガーデンセラピーの庭とする。

香り「巡る庭」 Circulation Garden
 香りの強い木立性のバラやラベンダー、ローズマリーなどハーブ系香り植物を植栽した斜面地。縫うように設けたスロープを巡りながら、舞い上がる香りに身をゆだねる「香り散歩」を楽しむガーデン。

- 【代表的な高木の植樹ポイント】
- ソメイヨシノ 枝垂れ桜、ウメ
 - ニオイツツジ エゾムラサキツツジ
 - セイヨウニンジンボク エゴ、アオダモなどの香る高木
 - ユズ、オリーブなどの香る高木(果木)

眼科棟の北側花壇はシェードガーデンとしてアンサイヤ、キボウシ、アガパンサスなどの宿根草を植栽。アオダモ、ヒトツバタゴなどの香りの高木も植樹することで、立体的な庭とする。



【敷地全体配置図】 5つの「香る庭」の配置と、7つのシーン(風景)の配置図



病院の正面入口、車寄せの花壇にはチューリップ、ムスカリ等の球根植物を植えているが、正面入口と対応しい風景をつくるため、ここに、シンボルツリーとして、ウメの大木を植樹したい。



香り「集う庭」 Community Garden
 桜の大木の木陰に藤棚とベンチを設置。小さな池もあり、散策中の人々が足を止め、滞在する庭には、香りの強いフリージアやスイセン、スズラン等を群生させ、辺り一面に香りを漂わせる「香り空間」をつくりたい。



香りえにし「縁の庭」 Relationship Garden
 長野県伊那市から持ち帰った約200株のバラを植樹した伊那バラガーデン。この花壇にソメイヨシノ(桜)を列植し、「赤い屋根と桜並木の病院」と謳われた原風景を再生する。